

欧州見聞の書状を読む

1 文書について

(1) 清水卯三郎

- ・清水卯三郎は、文政12年(1829)、羽生領町場村(現羽生市)の酒屋、薬種商を営む家に生まれた。
- ・幼いころより、伯父である甲山村(現熊谷市)の豪農根岸友山の家に預けられ、友山や友山と親交のある芳川波山ら学者たちに師事した。根岸家で目にしたオランダ語に興味を持った卯三郎は、伯父のついでで佐倉順天堂の佐藤泰然や、幕府天文台翻訳員の箕作阮甫ら蘭学者からオランダ語を学んだ。
- ・安政6年(1859)、30歳の卯三郎は開港地横浜で大豆等の商売をしていたが、そこで英語の必要性を痛感し、アメリカ公使ハリスの通訳ポートマンから英語を学んだ。文久3年(1863)に薩英戦争が起こると、卯三郎は語学力を買われて通訳としてイギリス海軍の旗艦に乗船し、船上から薩摩藩との戦いを目撃した。
- ・慶応元年(1865)、蘭学の師箕作秋坪から、幕府がパリ万国博覧会の出品者を集めていると参加を誘われ、幼少より欧米に行きたいと考えていた卯三郎は参加を決意した。
- ・晩年、半生を綴った回想記『わがよのき』を、全文平仮名で残している。

(2) 根岸家文書

甲山村の豪農根岸家の古文書群で、同村の名主・戸長役場に関するものと、幕末に新徴組へ参加するなど尊王攘夷運動に奔走した根岸友山、県会議長・貴族院議員等を勤めた根岸武香に関する資料が中心。なお、根岸家の典籍類は国立国会図書館に所蔵されている。

2 語句解説

- ・天竺海：インド洋。
- ・三枚のかこ：三人がつき、二人交代で運ぶ駕籠。三枚肩。
- ・英亜俄：イギリス・アメリカ・ロシア(清朝の満州語 俄羅斯「オロス」)。
- ・全尾：「全備」の当て字か。
- ・釈迦仏の生処死処：釈迦の生地ルンビニ(現ネパール)と入滅地クシナガラ(現インド)か。
- ・寥々：ものさびしい。
- ・大和尚：徳の高い優れた僧。
- ・跣足：裸足。
- ・椰子木：ヤシ。
- ・檳榔樹：ビンロウ。若芽などは食用になるとともに、中央アジアではビンロウの果実を乾燥させ、石灰の粒とともにキンマの葉に包んで嗜む嗜好品としていた。
- ・役僧：寺院の事務を行ない、法事においては導師の補助を担当する僧侶。
- ・浮屠家：ふとけ。ほとけ。文中では僧侶の意か。
- ・一致せぬ事より人の支配を受る
：インドでは、衰退しイギリス東インド会社の保護を受けるムガル帝国と、独立した国内諸

勢力との対立が続き、組織だった反イギリスの運動が起こらないままイギリスの植民地化が進められた。1857年のインド大反乱（セポイの反乱）においても、統一を欠いた反乱勢力は個別撃破され、イギリスの支配を受けることになる。

- ・ ゲベル林砲礮：不明。カルバリン砲か。礮は弾丸を飛ばす兵器を指す。
- ・ 目方：重さ。

3 古文書の内容

①史料一（根岸家文書 No.5139-2）

一筆お送りいたします。春暖と申しますが、インド洋は日本の夏よりとても暑く本当に苦しみましたけれど、幸い無事にアレクサンドリアまで到着しましたのでご安心ください。あと12、3日でフランスパリに参ります。昨夜初めて蒸気車に乗りました。実に感心するもので、馬車より1、2倍はやく、三枚の駕籠に乗るより楽ですが、とても揺れてがらがら騒がしいものでした。別紙については久保宅にて新聞をご覧ください。他は後便に託します。皆さんによろしくお伝えください。

②史料二（根岸家文書 No.5139-1）

一筆お送りいたします。春暖の節、ますますの御安康御祝申し上げます。私も無事3月7日フランスパリに到着しましたのでご安心ください。博覧会場は未だ大半はできつつも完成はしていませんが、英米露などの器械をたくさん設置し始めている所もありとても驚きました。万国の奇物名産を一度に観ることができるので、実に人智を増す催しでございます。さて、日本を出帆した3日間は波高く船が揺れるのでくつろぐこともできませんでしたが、インド洋は平地を行くがごとく静かでした。しかし、熱帯のため2月始めにも関わらず盛夏のようでした。釈迦仏の生地死地へ参りましたが、とてもものさびしいものでした。ここに徳の高い僧が二人いましたが、どちらも頭を丸め、黄色の布を身体に巻き、肩と腕を出しておりすっかり羅漢のようでした。月に4回説法を行なうそうです。現地の人々は皆裸足で、大和尚も裸足でした。彼らは皆仏教徒で、カトリックやプロテスタントなどの信仰はありません。この地はヤシやビンロウが多く、皆これを食べますが、ビンロウを嗜むので歯が黒く唇は赤く日本婦人のようです。綺麗な装いの婦人も裸足でした。役僧らしき僧侶が英語を話せたので、いろいろ通訳したところ和尚はとても喜んでいました。しかし、現地の人にきくとイギリスの支配を受けているということで、国内の不一致により他国の支配を受けてしまうのは、我が国も気をつけねばならぬことと思います。日本も今の様子だと余程心配しなければなりません。フランスは、話にきいていたよりも強大でした。1日マルセイユというところに泊まり、造船場に行きましたがとても驚きました。武器の山があり、軍艦が集結している様に驚き、日本もこのくらい武器を作らないといけないが今の貧しさでは難しいと思いました。細かいことは帰国の上申し上げます。また、手紙を下さるときは極々細字で薄い紙に書き、天王町へお届けください。なるべく軽い方がいいです。今後はほとんど手紙を差し上げませんが、お許しください。皆さんによろしくお伝えください。